

前回の悔しさをバネに 勝ち取った全道1位

「今回のコンテストに向けて、これまで以上に原稿作りや読み上げ練習を頑張りました。でも、これまでに入賞したこともなかったので、1位という結果は想像もしていませんでした」と北海道高等学校文化連盟第40回放送コンテストを笑顔で振り返る外崎さん。

外崎さんが1位となったアナウンス部門は、自分が住む地域に関する話題を限られた時間の中で全国の高校生に向けて伝えるもの。

外崎さんは、これまでも地区大会で優秀な成績を収め、全道大会に3回出場していたものの、平成29年6月に行われた前回の大会では、緊張のあまり、しっかり読み上げることができないなど、自分の力を出せずにいました。

自身に対する悔しさを感じていた外崎さんは今大会に向けて、他の放送局員とともに、日々、発声や滑舌の練習を重ねてきました。

また、母親から勧められた市内のイベントを取材し、原稿を作成。顧問や放送局員、両親などからアドバイス、テレビやラジオを参考に、どのように読み上げるとま



▲お腹に力をいれながら、発声練習に励む放送局員

く伝わるか、聞きやすいかを考えながら、何度も文章の校正などを行い、大会に臨んだことを教えてくださいました。

将来の夢に向かって 進む毎日

小学生の頃から、人前で話すことが好きだったという外崎さんは、現在、アナウンサーになって、ニュースなどを多くの人に伝えたいという夢もっています。

「今は、アナウンサーとしての知識を身に付けるために、大学への進学を目指しています」という外崎さんは、両親や多くの人に支えてもらいながら、8月の全国大会が将来の夢へのステップアップとなるよう、今日も練習に励んでいます。



KIRARI

そと ざき ま ひろ
外崎 真洋さん (鷺別町)

平成29年11月16日・17日に函館市で開催された北海道高等学校文化連盟第40回放送コンテスト。全道の各地区大会で優秀な成績を収めた92人が集まった同コンテストのアナウンス部門において北海道登別青嶺高等学校放送局の外崎真洋さんが、見事1位に輝きました。

8月には長野県で開催される第42回全国高等学校総合文化祭に北海道代表として出場する外崎さんに、全国大会に向けた意気込みを聞きました。

自分の声で多くの 人に伝えたい



平成13年、登別市生まれ。17歳。

小学校、中学校では、放送委員としてお昼の放送や学校行事の司会などを経験。北海道登別青嶺高等学校へ進学後も放送局に入局し、アナウンサーという夢に向かって、日々、発声練習などに取り組む。